
令和5年度カーボンニュートラル推進事業 みんなでアクション！置き配活用プロジェクト 実施結果

福島県 環境共生課

目次

	項目	ページ
1	事業の概要	2
2	モニター基礎情報	3~4
3	モニター期間中の利用状況	5~7
4	アンケート結果	
4-1	宅配バッグを利用して良かったこと	8
4-2	宅配バッグを利用して気になったこと	9
4-3	宅配バッグ活用は再配達削減につながったか、今後必要だと思うことは？	10
4-4	実践している地球温暖化対策は？	11
4-5	宅配ロッカーの認知度及び利用希望	12
4-6	今後期待する宅配ロッカーの設置場所	13
5	温室効果ガス排出削減の結果	14
6	宅配事業者からの感想・意見	15
7	まとめ	16

1 事業の概要

みんなでアクション！置き配活用プロジェクト

(1) 目的

家庭における脱炭素型ライフスタイル推進の一環として、宅配物の再配達削減を促進し、温室効果ガスの排出を削減する。

(2) 内容

県内モニター300名に宅配バッグ「OKIPPA」を配布して実際に活用してもらい、活用状況や使用感などのアンケートに回答いただいた。

- 対象者 : 県内在住者で、活用状況などのアンケートに協力できる方
- 応募期間 : 令和5年7月3日～7月31日
- モニター参加者 : 300名 (応募総数 : 1,129名から抽選)
- モニター期間 : 令和5年10月1日～令和6年1月3日
- アンケート : モニター期間終了後、WEBフォームにアンケートを実施 (アンケート回収率 : 100%)



モニターに配布した宅配バッグ (Yper(株)製「OKIPPA (オキッパ) 」)

2 モニター基礎情報

- モニター参加者の居住地は、中通り地方にお住まいの方が7割以上となった。
- モニター参加者の世代は、40代・50代が全体の半数以上となった。
- モニター参加者の家族構成は、核家族世帯（共働き）が約半数となった。

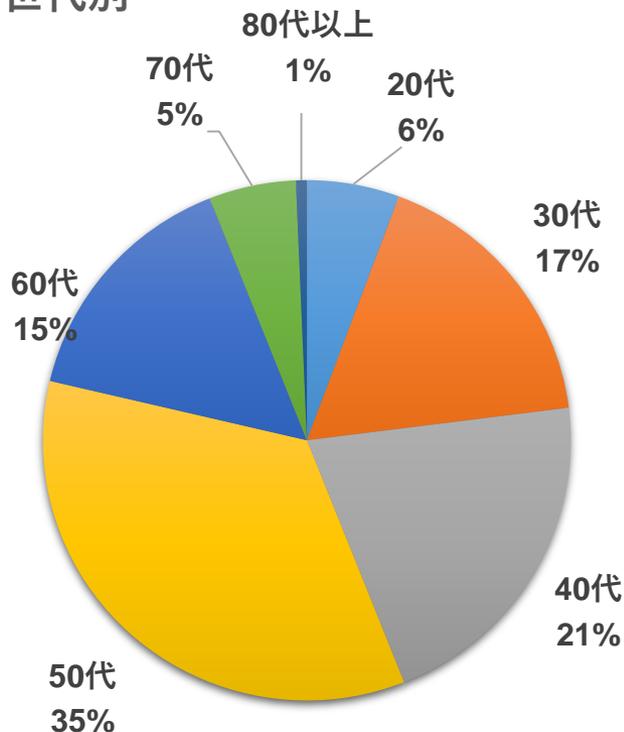
(N = 300)

居住地

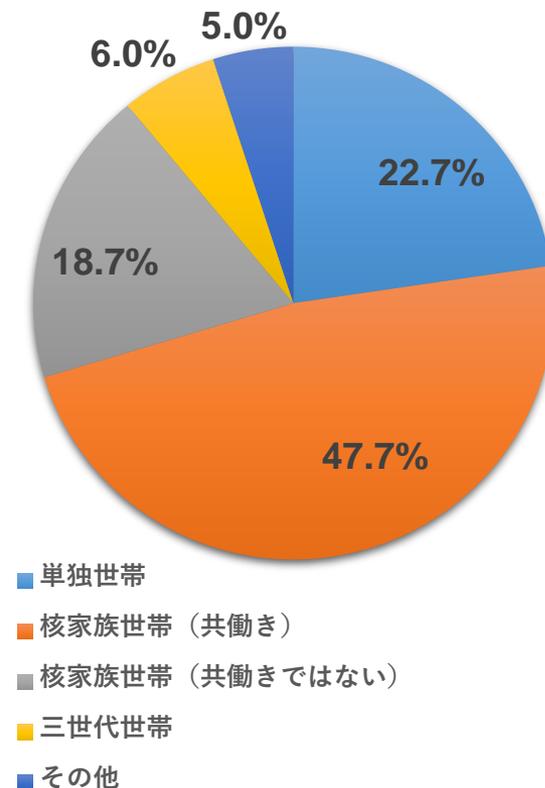
会津地方28
中通り220
浜通り52

福島市	113	国見町	2
郡山市	52	川俣町	2
いわき市	29	西郷村	2
会津若松市	15	猪苗代町	1
伊達市	10	湯川村	1
南相馬市	10	柳津町	1
二本松市	9	会津美里町	1
須賀川市	8	下郷町	1
檜葉町	8	南会津町	1
喜多方市	7	本宮市	1
白河市	5	鏡石町	1
田村市	4	石川町	1
大玉村	3	小野町	1
矢吹町	3	中島村	1
相馬市	3	棚倉町	1
		塙町	1
		新地町	1
		浪江町	1

世代別



家族構成

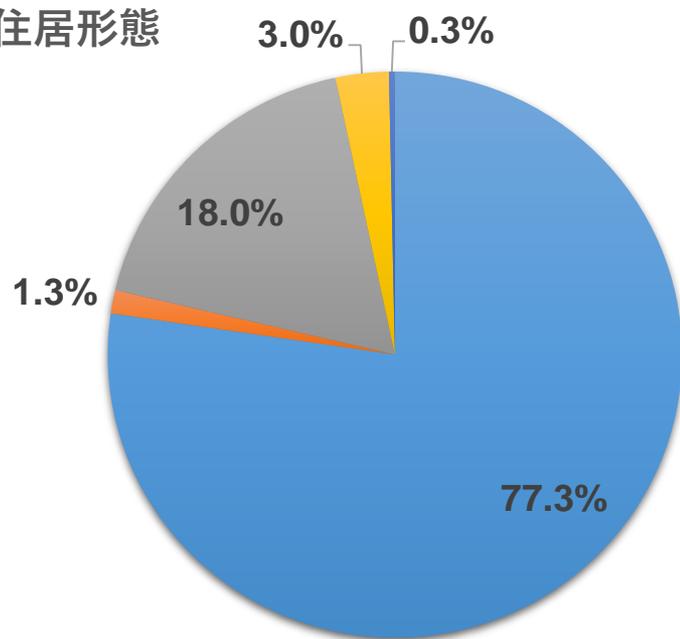


2 モニター基礎情報

- モニター参加者の住居形態は、戸建て住宅が7割以上を占めた。
- モニター参加者の職業は、会社員・公務員が全体の半数以上を占めた。

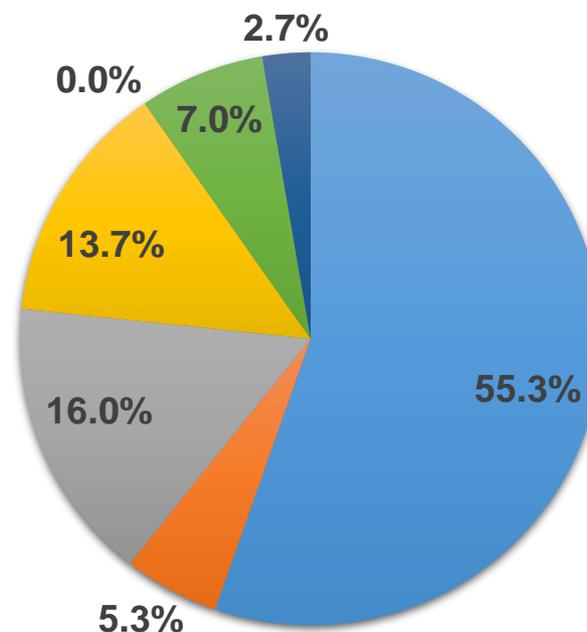
(N = 300)

住居形態



- 戸建て
- マンション
- アパート
- 社宅・寮・シェアハウス等
- その他

職業



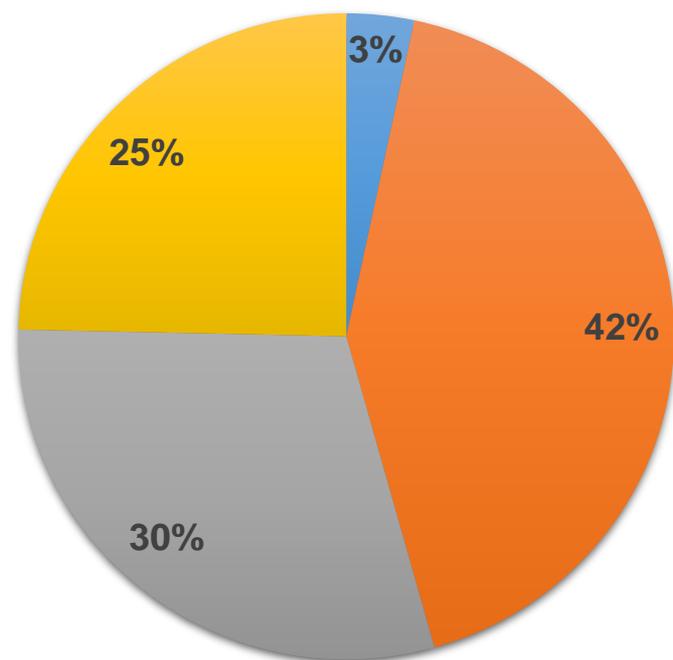
- 会社員・公務員
- パート・アルバイト
- 学生
- その他
- 自営業・自由業
- 専業主婦・主夫
- 無職・休職中

3 モニター期間中の利用状況

- モニター参加者の半数以上は月3回以上、約9割は月1回以上宅配便を利用していた。
- モニター参加者の半数以上は再配達が発生しなかった。

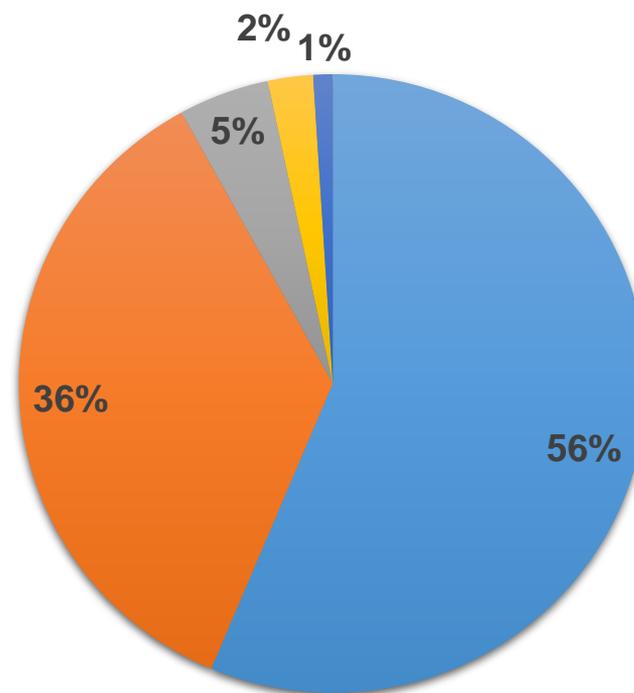
(N = 300)

宅配便利用状況



■ 宅配便の利用がなかった ■ 月1～2回
■ 月3～4回 ■ 月5回以上

再配達割合



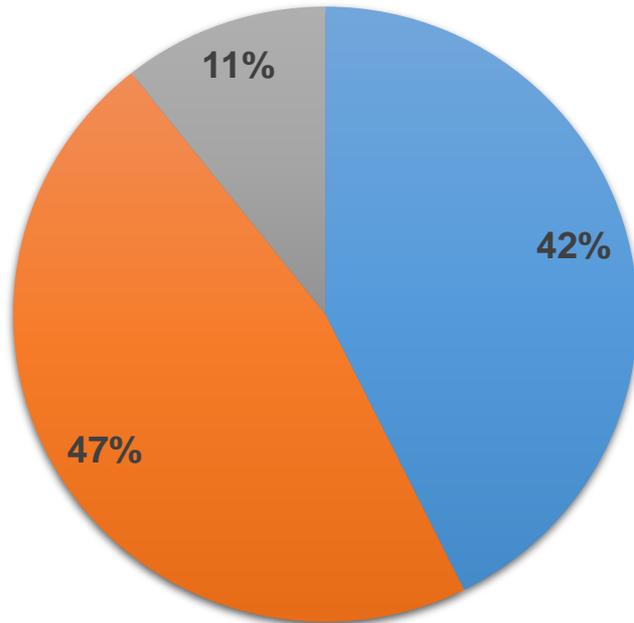
■ 再配達が発生しなかった
■ 3割くらい
■ 半分くらい
■ 7～8割くらい

3 モニター期間中の利用状況

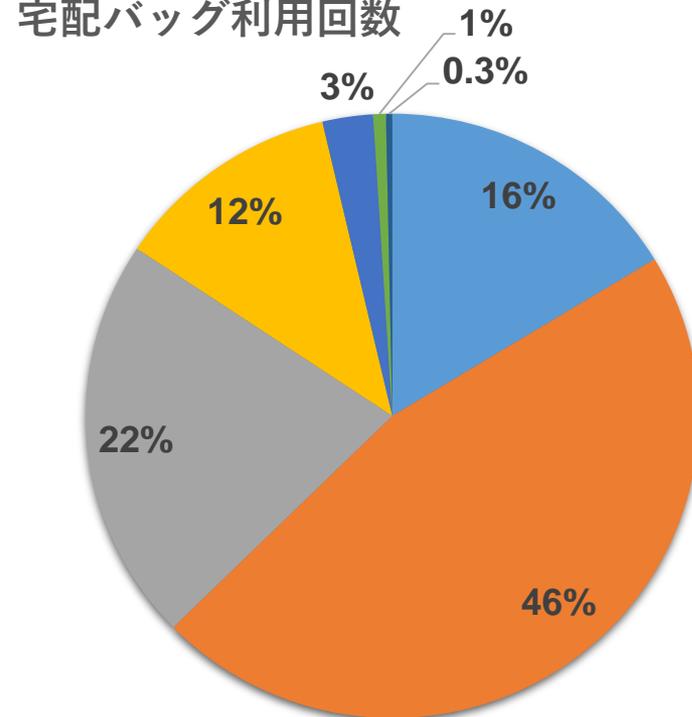
- モニター参加者の約9割は宅配バッグを設置し、なかでも宅配物の配達がある場合のみ玄関先に設置した方が最も多かった。
- モニター参加者の8割以上は宅配バッグを1回以上利用した。宅配バッグの総利用回数は、モニター参加者300名合計で1,825回となった。

(N = 300)

宅配バッグ設置状況



宅配バッグ利用回数



■ 宅配便の有無に関わらず、常に玄関先に設置していた

■ 宅配便の配達がある場合のみ玄関先に設置した

■ 設置しなかった (利用しなかった)

■ 0回

■ 1-5回

■ 6-10回

■ 11-20回

■ 21-30回

■ 31-32回

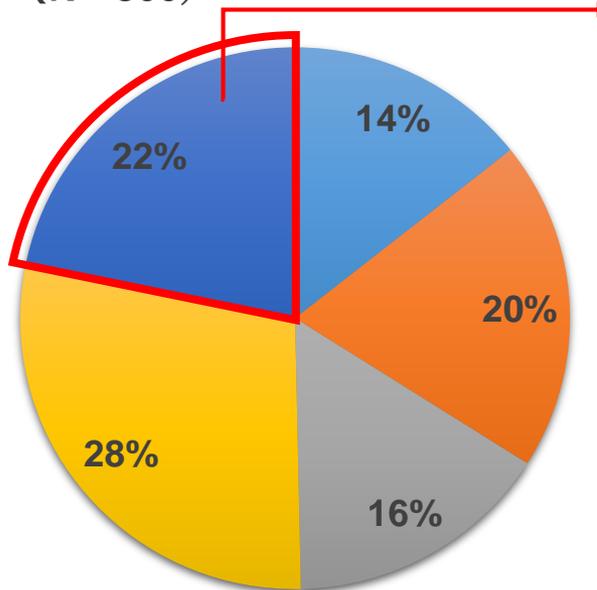
■ 61回

3 モニター期間中の利用状況

- モニター参加者の約2割は宅配バッグを利用しなかった。
- モニター参加者のうち宅配バッグを利用しなかった方の半数以上は、時間指定や宅配バッグ以外の置き配により再配達を防いだ。また、「宅配事業者が宅配バッグの使用方法が分からなかったため」という回答もあった。

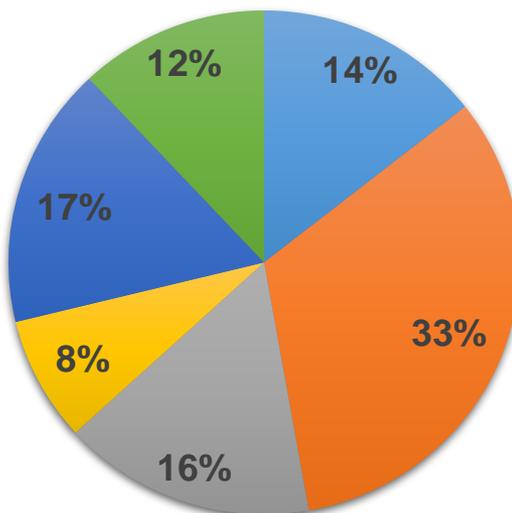
宅配バッグ利用状況

(N = 300)



- すべて
- 7~8割くらい
- 半分くらい
- 3割くらい
- 利用しなかった

宅配バッグを利用しなかった理由 (複数回答) (N = 66)



- 常に在宅しており対面での受取が可能であったため
- 時間指定を行い、指定した時間に対面で受け取るようにしていたため
- 宅配バッグOKIPPA以外の手段により置き配を利用したため (例: 物置、車庫などへの置き配)
- 宅配業者が宅配バッグOKIPPAの使用方法が分からなかったため
- 置き配可能な宅配物ではなかったため (例: 生もの、食品)
- その他

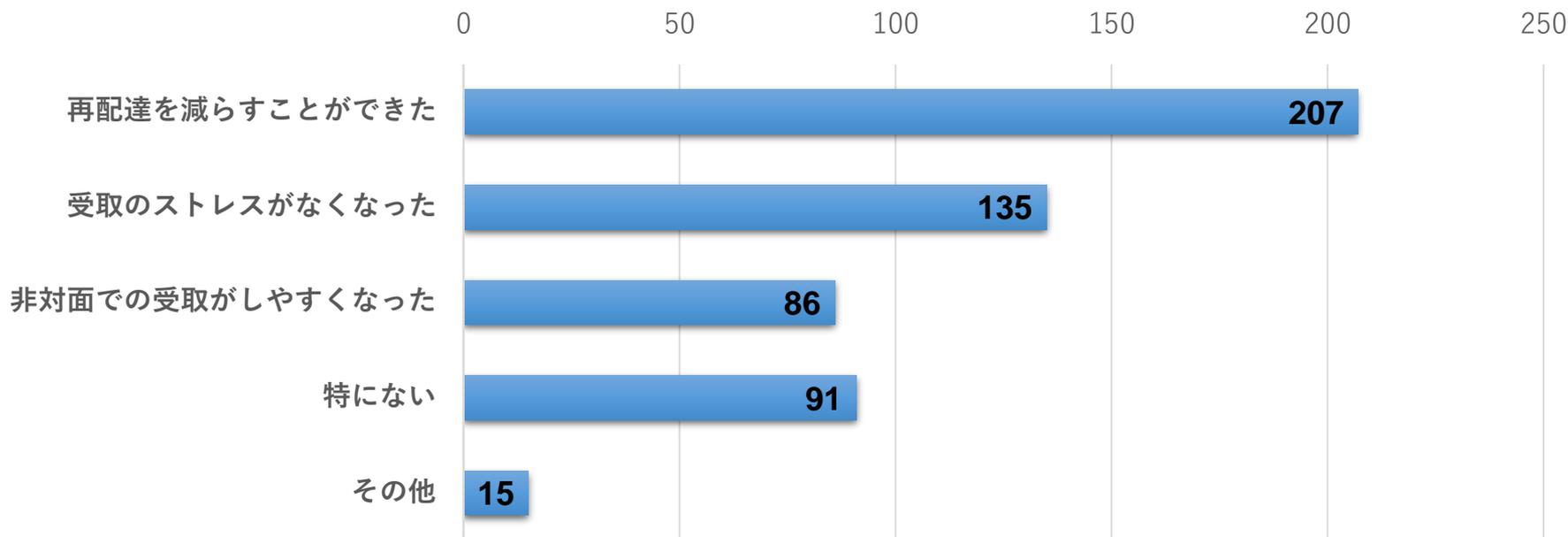
その他(15)の内訳: 自宅以外で受取(3) バッグの鍵が不具合(2) 設置方法が面倒(2) 荷物入らず(2) 配送員が使用せず(1) 不要だった(1) 材質が不安(1) 設置により留守が判明の為、防犯上使用せず(1) 宅配業者に断られた (1) 設置してもチャイムを鳴らされた、時間指定や配達方法の指示で対応 (1)

4-1 宅配バッグを利用して良かったこと

- モニター参加者の約7割は、再配達を削減できたと回答した。
- モニター参加者の約4割は、受取のストレスがなくなったと回答した。
- モニター参加者の約3割は、非対面での受け取りがしやすくなったと回答した。
- その他の声として、「留守でも安心して外出しやすくなった」「夜勤でも昼に起こされない」「時間指定利用の意識付けのきっかけになった」などがあった。

(N = 300)

宅配バッグを活用して良かったこと（複数回答）



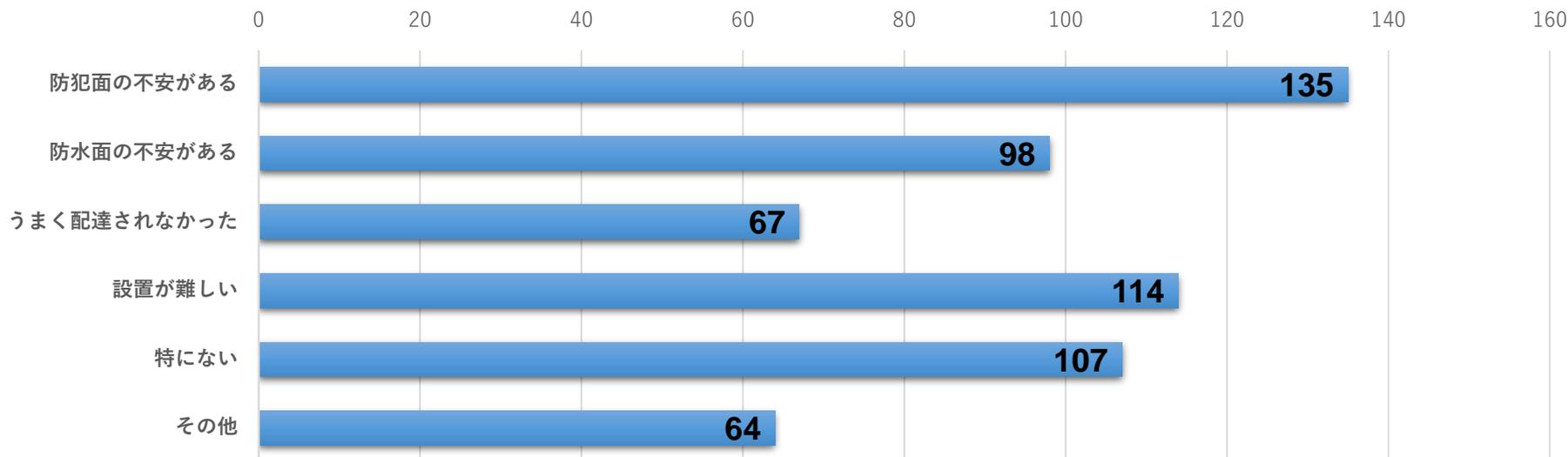
その他(15)の内訳：留守でも安心(5) 利用せず(4) 今後使いたい(2) 安全性不安(1) 夜勤でも昼に起こされない(1)
時間指定の意識付けのきっかけに(1) 配達員が1度だけ使用(1)

4-2 宅配バッグを利用して気になったこと

- モニター参加者の約4割は防犯面の不安を挙げた。盗難リスクや、宅配バッグの設置により留守が明らかになるという懸念の声もあった。
- モニター参加者の約3割は防水面の不安を挙げた。中身が心配、暑い日は中身が熱くなるという懸念の声もあった。
- うまく配達されなかったケースとしては、「宅配事業者が宅配バッグの使用方法が分からずに持ち帰る」「宅配バッグに入れずに近くに置く」「荷物が大きい」「複数入らない」などの声があった。
- 設置が難しいケースとしては、「強風時にばたつく」「ドアノブが摩耗する」「使用前はコンパクトだが元に戻しにくい」「帰宅時に荷物でドアが塞がり邪魔」などの声があった。

宅配バッグを活用して気になったこと（複数回答）

(N=300)



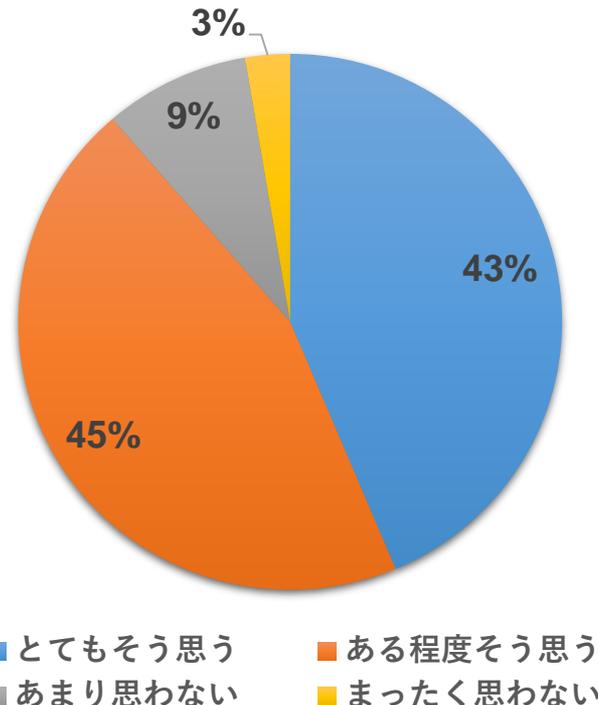
その他(64)の内訳：配達員不慣れ、使用が面倒 (15) 業者側が宅配バッグ使用不可または要事前申請 (5) 使いにくい (11) 盗難への不安 (11) 入らない (8) 設置場所に課題 (7) 留守判明への不安 (1) 暑い日に中が熱くなる (1) など

4-3 宅配バッグ活用は再配達削減につながったか、今後必要だと思うことは？

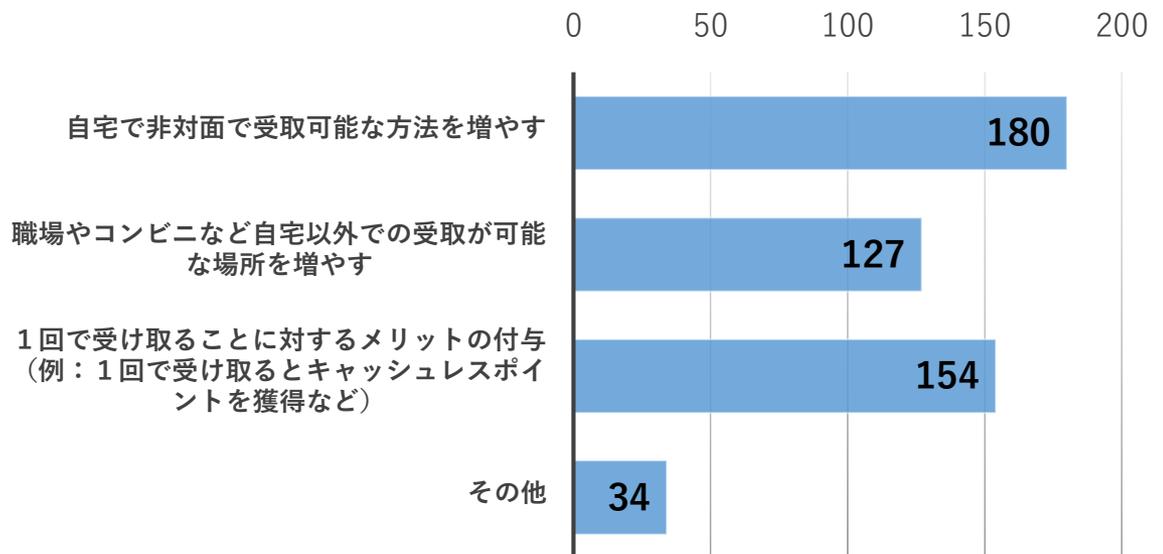
- モニター参加者の約9割は再配達削減を実感した。
- 今後必要だと思うことは、「自宅での非対面受取方法の選択肢を増やすこと」「1回で受け取ることに對するメリットの付与」「職場やコンビニなど自宅以外での受取場所を増やす」の順で多かった。
- 配達通知や時間指定など、宅配事業者側の受入体制の整備を求める声もあった。
- 宅配ボックス・集合ボックスを希望する声や再配達の有料化を提案する声もあった。

(N=300)

宅配バッグ活用により
再配達削減につながったか



再配達削減のために今後必要だと思うこと
(複数回答)



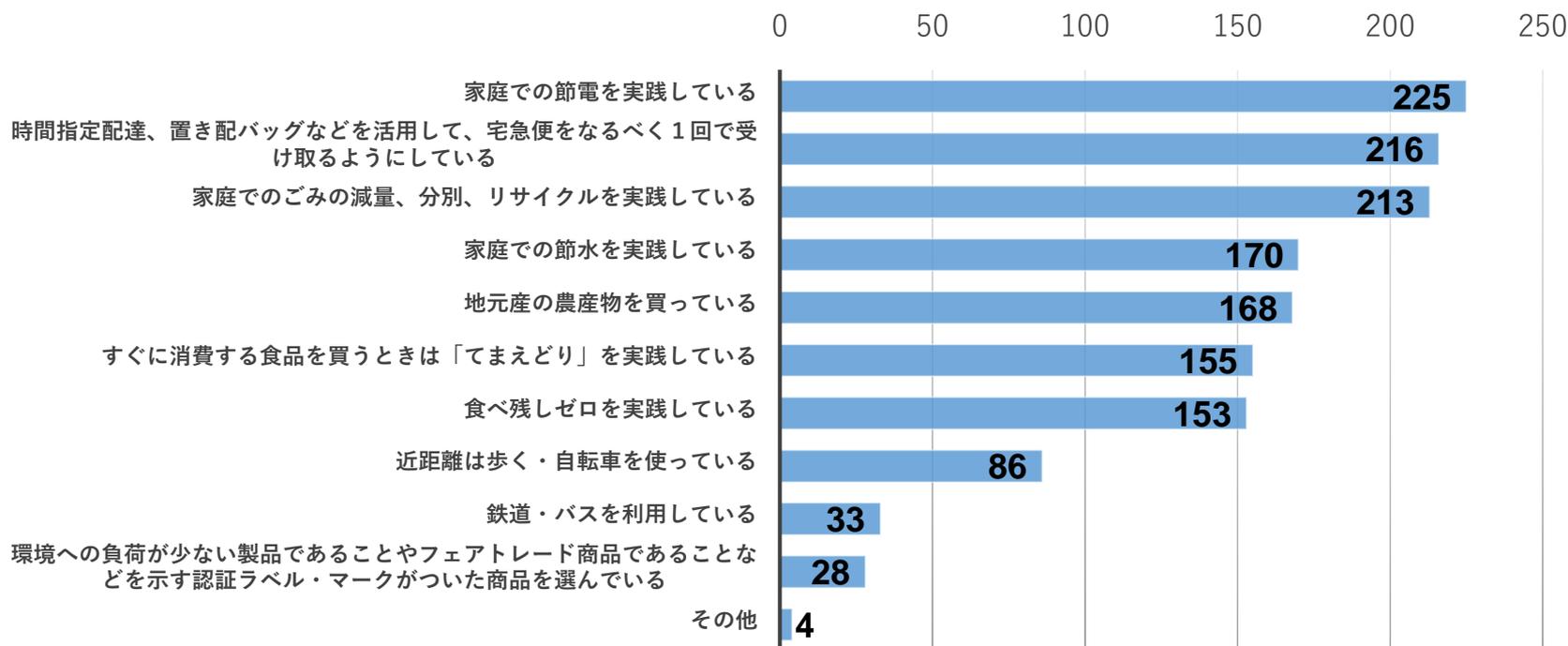
その他(34)の内訳：時間指定等、宅配業者への受入体制への要望 (22)
 宅配ボックス、集合ボックス希望 (4) 再配達有料化 (4)
 再配達削減のPR (1) 冷凍食品対応 (1)
 自宅以外で受取でポイント付与 (1) 特になし (1)

4-4 実践している地球温暖化対策は？

- モニター参加者の7割以上は、「節電」「再配達削減」「ごみ減量・分別・リサイクル」を実践している。
- モニター参加者の5割以上は、「節水」「地元産の農産物購入」「てまえどり」「食べ残ゼロ」を実践している。
- モニター参加者の3割以上は、「徒歩移動や自転車利用」を実践している。
- モニター参加者の約1割は、「環境への負荷が少ない製品であることやフェアトレード商品であることなどを示す認証ラベル・マークがついた商品を選ぶ」ことを実践している。

実践している地球温暖化対策（複数回答）

(N=300)

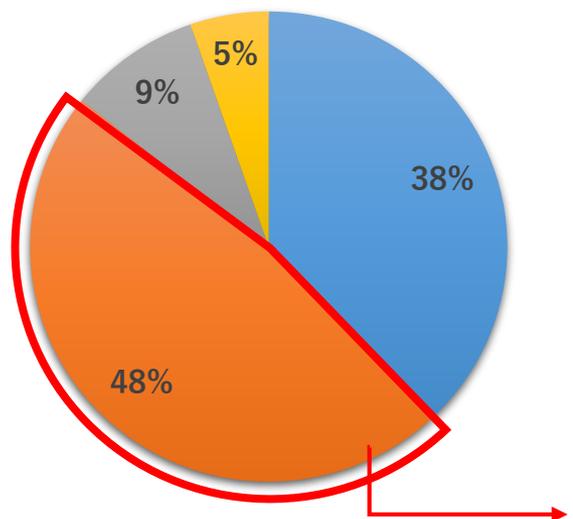


その他(4)の内訳：堆肥づくり (1)コンポスト利用 (1) 水分乾燥させてからごみ出し (1) 宅配業者へ置き配位置を事前に指定 (1)

4-5 宅配ロッカーの認知度及び利用希望

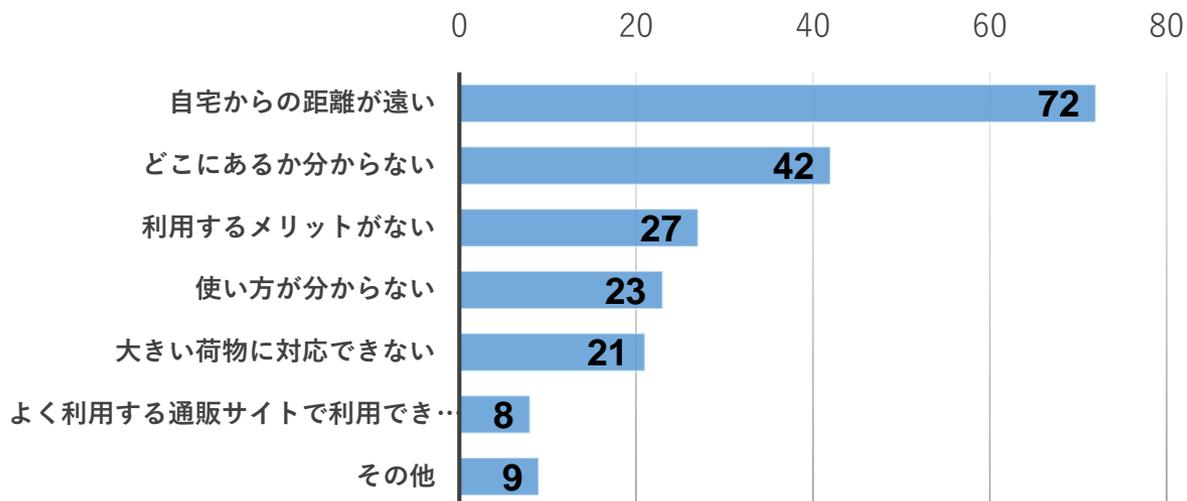
- モニター参加者の8割以上は、宅配ロッカーを知っていると回答した。
- 知っているが利用しない理由としては、「自宅からの距離が遠い」ことを挙げる声が一番多かった。
- そのほか、「どこにあるか分からない」「メリットがない」「使い方が分からない」といった声もあった。

宅配ロッカーの認知度
及び利用希望 (N=300)



- 知っているし、利用したい (している)
- 知っているが、利用しない
- 知らないが、利用したい
- 知らないし、利用しない

「知っているが、利用しない」理由 (複数回答) (N=143)



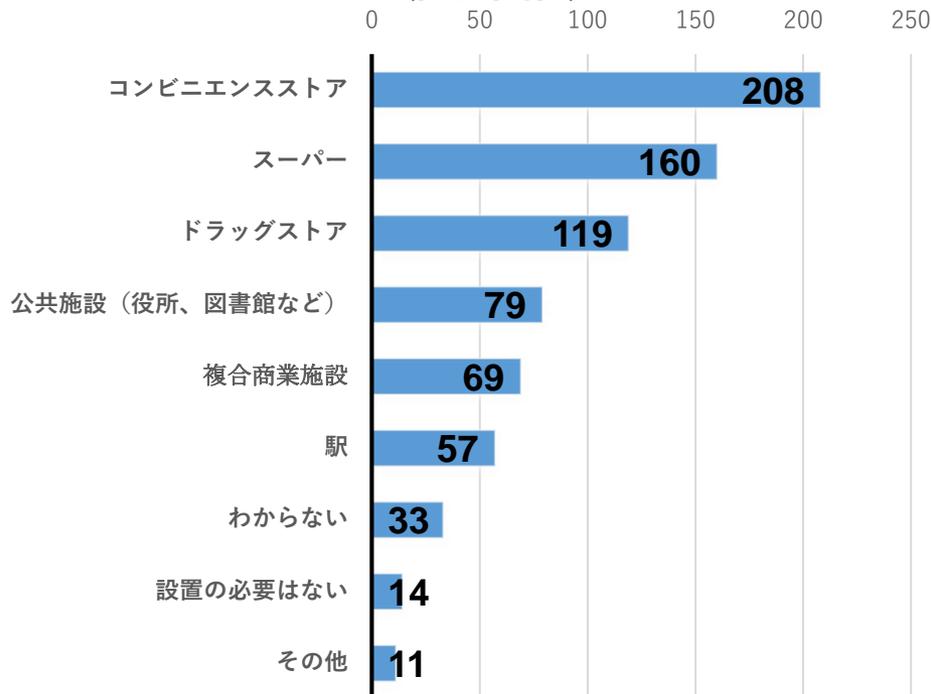
その他(9)の内訳：受取が手間 (4) 在宅時に対応可 (3) 機会なし (1) スマホなし (1)

4-6 今後期待する宅配ロッカーの設置場所

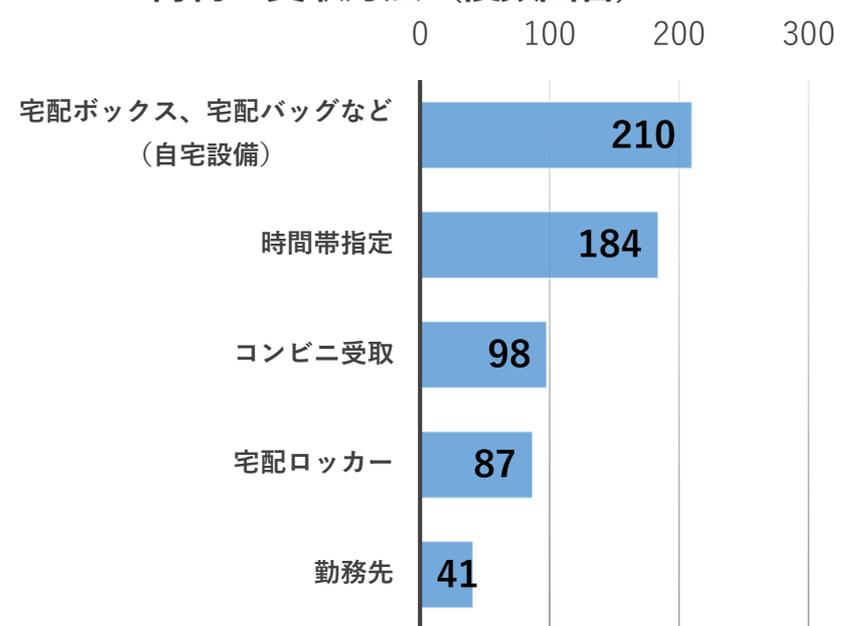
- 宅配ロッカーの設置場所として、コンビニやスーパー、ドラッグストアを望む声が多かった。
- 今後利用したい（よく利用している）受取方法としては、自宅に対応できる「宅配ボックス、宅配バッグなど」「時間帯指定」を回答する方が多かった。また、「コンビニ受取」「宅配ロッカー」などを回答する方も3割程度いた。

(N = 300)

今後期待する宅配ロッカー設置場所
(複数回答)



今後利用したい（よく利用している）
荷物の受取方法（複数回答）



その他(11)の内訳：近所（3）駐車場有（2）ガソリンスタンド（1）
幹線道路沿い（1）など

5 温室効果ガス排出削減の結果

<二酸化炭素排出抑制量の算出>

- 今回のモニター期間中（10月1日～1月3日）の宅配バッグの総利用回数は、モニター参加者300名合計で1,825回。
- **約855キログラムの二酸化炭素排出を抑制した**と試算できる。
- これは…
 - ① 杉の木に換算すると、**杉の木約97本**が1年間に吸収する二酸化炭素量に相当。
（林野庁ウェブサイトを参考に、1本あたり約8.8キロとして計算）
 - ② 福島県内の家庭から1日に排出される二酸化炭素排出量に換算すると、**約88世帯**が1日に排出する二酸化炭素量に相当。
（福島県における温室効果ガス排出量（2020年度）を参考に、1世帯あたりの二酸化炭素排出量：年間3.54トン、1日あたり9.69キログラムとして計算）

【算出式】 二酸化炭素排出抑制量[t-CO₂] = N 個 × 0.58 km/個 × 1[t] × 808/1000000[t-CO₂/t・km]

N 個：宅配バッグで受け取った個数
0.58 [km/個]：宅配便1個に対する配達者の走行距離
※宅配事業者から提供の配送車の走行距離を取扱個数で除して算出。
走行距離には幹線輸送の数値を含まない。
1 [t]：積載量の平均を1tと想定。
808/1000000[t-CO₂/t・km]：営業用小型車の二酸化炭素排出原単位

※国土交通省「宅配の再配達削減に向けた受取方法の多様化の促進等に関する検討会報告書」を参考に算出

6 宅配事業者からの感想・意見

<好意的な感想・意見>

- 再配達が減って助かった。
- モニターに当選しなかった方が、個別に宅配バッグを買って活用したという声を聞いた。
- 夜間の配達だった個人宅が数件ではあるが少なくなった。
- 1回、2回でも良いので、宅配バッグの利用が増えれば再配達削減につながるのは確実。温室効果ガスの排出削減にもつながる。
- 宅配バッグのような具体的な取組を積み重ねていくことが大事。
- 不在票作成に関する手間が無くなるため、メリットしかない。1日のうち配達にかけられる時間が多くなった。
- 配達効率が上がった。体の負担も少なくなった。
- 配達個数に応じた給与支払いとなる配達員もいて、不在の場合には配達個数にカウントされないため、宅配バッグが利用できるとありがたいと感じる。

<課題など>

- 宅配バッグの使い方について配達員への周知徹底が図れず、活用できない部分もあったと推察。
- 個人宅用の宅配ボックスは多種多様であり、使い方が分かりにくい。
- 出荷側で「宅配バッグ不可」と指定した場合は利用できない。クール便や代金引換の場合も利用できない。
- 今回の宅配バッグの材質では、雨や雪の場合は持ち帰りになってしまう。
- お客様側で宅配バッグに鍵をかけてしまい、利用できなかったことがあった。
- 配達時刻等を事前にお知らせするサービスを実施しているが、まだまだ周知が必要だと感じた。一層の周知に努めたい。

7 まとめ

- 今回のモニター参加者の約9割は、宅配バッグの活用が再配達削減につながったと実感し、約3か月のモニター期間中、宅配バッグは300世帯で計1,825回、試算では約855キログラムの二酸化炭素排出を抑制した結果となった。

【宅配バッグの普及促進について】

- モニター参加者からは、宅配バッグに関する盗難リスクなど防犯面での不安や、防水等の宅配物の品質保持、さらに宅配事業者側の体制整備などに関する声が寄せられた。
- 宅配バッグの認知向上と併せて、素材・大きさ・形・使い方などライフスタイルに合った情報を県民に届ける必要がある。また、宅配バッグの利用方法や設置場所などについて、県民と宅配事業者の双方が理解を深める必要がある。

【再配達を削減するための対策について】

- モニター参加者からは、受取可能な方法を増やすこと、1回で受け取ることにするメリットの付与が必要との声が多かった。また、宅配事業者に対しては、配達時間帯の事前通知や受取方法を細かく選択できるような体制を求める声も寄せられた。
- 自宅での時間帯指定による受取のほか、職場やコンビニでの受取、宅配ロッカー等の普及といった多様な受取方法に関する情報を丁寧に県民に届ける必要がある。また、再配達削減に向けた機運を醸成するため、1回で受け取ることにするメリットの付与も効果が見込まれる。さらに、宅配事業者に対しては、モニターの要望に対応できるようなシステム更新などを期待したい。

- ✓ 今後も、脱炭素型ライフスタイル推進の一環として、県民、宅配事業者、行政が一体となって再配達削減に取り組むことで、温室効果ガスの排出を削減してまいります。